

第8節 家庭

第1 指導実践事例集の活用について

1 作成の基本的な考え方

本資料は、小学校学習指導要領及び埼玉県小学校教育課程編成要領を踏まえるとともに、同指導資料、同評価資料の趣旨に基づき、指導方法に焦点を当てて実際の授業で活用できるように編集した。特に、小学校学習指導要領に即して、家庭科の指導における今日的なテーマを設定するとともに、その実践のねらいと手立てを明確にして授業実践に取り組んだ。ここに取り上げた事例については、各学校において、家庭科の目標を達成するために、児童、学校、地域の実態に応じて活用されたい。

2 取り上げた内容

本資料は、次の内容で構成されている。

第1 本資料の活用について

第2 実践事例

事例1 学習形態を工夫して言語活動の充実を図り、生活をよりよくしようと工夫する能力を高める事例

題材名「快適な生活をしよう～夏～」C(1)ア(2)イ D(2)ア

自分が調べた方法や結果を図やグラフ、言葉を用いてまとめる。さらに、まとめたことを課題班で確認し、学習班で発表することにより言語活動の充実を図り、友達と意見交換しながら、自分の考えを深め、自分の生活をよりよくしようと工夫できるようにした。

事例2 小・中学校の内容の系統性を見通し、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を図る事例

題材名「挑戦しよう ミシン縫い」C(3)アイウ

小・中学校の製作の基礎的・基本的な技能を段階的に身に付けることができるよう、系統表を作成し見通しをもって製作に取り組ませる。また、2学年間の中で重点的な学習を明確にし、生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能の習得を確認できるようにした。

事例3 伝統の食事である米飯とみそ汁を中心とした食事に視点を当て、食生活を工夫する能力を育てる事例

題材名「1食分の献立を考えよう」B(1)アイ(2)アイウ(3)アイウ D(1)イ

我が国の伝統的な日常食である米飯とみそ汁を中心に、栄養のバランスを考えた献立の作成を栄養教諭とのチーム・ティーチングで行い、学習した知識を活用して食生活をよりよくしようと工夫する能力を育てていくようにした。

事例4 2学年間を見通し、自分の成長への気付きを段階的に深め、家庭生活と家族の大切さに気付かせる事例

題材名「振り返ろう できるようになったこと」A(1)ア

第5学年のガイダンスから、自分の成長を自覚していけるようにA「自分の成長と家族」(1)アの学習を積み重ね2学年間の中に配置した。本題材は、第5学年の最後に1年間の学習のまとめをし、第6学年の見通しをもつ学習である。さらに、第6学年の最後には、2学年間の学習をまとめ、中学校の学習へとつながるようにした。

事例5 体験をととして、身近な消費生活と環境を考え、実践的な態度を育てる事例

題材名「考えよう 物の選び方、買い方」D(1)アイ(2)ア

具体的な場面を想定して買物シミュレーションを行い、物の選び方や買い方について考えることを通して消費者としての素地を育てる。学習した知識や技能を活用して、食材の購入計画を立て、家庭実践につなげていくことで、実践的な態度を育てていくようにした。

3 活用に当たっての配慮事項

本資料は、各学校において実際の授業を展開する参考資料として作成されている。活用に当たっては次の点に配慮する。

- (1) 本事例については、児童が学習した知識及び技能を生活に活用できるように、計画、実践、評価、改善などの一連の学習過程を適切に組み立て、段階を追って学習が進められるようにしてある。児童の具体的な生活経験と関連付けながら課題をつかみ、その課題を追究する場面では、比較実験や調査活動等を行う。その結果から分かったことや考えたことを発表し合い、活用の仕方を考える等の学習活動ができるようにしてある。各学校においては、実践の参考として児童の実態等に即して活用されたい。
- (2) 学習指導要領の改善事項を踏まえ、特に「言語活動の充実」「小・中の連携」「伝統文化」に視点を当てた事例を取り上げた。これらの視点については、地域や学校の実態に応じて指導計画を作成し活用を図っていくことが必要である。
- (3) 指導と評価の一体化においては、題材の評価規準及び学習活動における具体の評価規準を示している。学習カードや製作計画表等の記述内容から「十分満足できる状況」「努力を要する児童への手立て」の具体例を記載している。各学校の指導と評価の計画に基づき、学習カード等の作成に当たり参考にさせていただきたい。

第2 実践事例

事例1 学習形態を工夫して言語活動の充実を図り、家庭生活をよりよくしようと工夫する能力を高める事例

実践のねらいと手立て

| 題材名 | A | B | C | D | 編成要領 | 指導資料 |
|--------------------|---|---|----------|------|------|-------|
| 快適な生活をしよう～夏～（第5学年） | | | (1)ア(2)イ | (2)ア | P108 | P136～ |

本題材は「快適な衣服と住まい」の学習として、内容 C(1)ア(2)イと内容 D(2)アとの関連を図った事例である。季節の変化に合わせて、自然を上手に利用しながら、快適に住まうことができるようにすることをねらいとしている。

ここでは、夏季に涼しく過ごすための方法を検証実験をとおして学習する。言語活動を充実させるために課題班で実験結果を図やグラフ、言葉を用いてまとめ、さらに学習班で発表し合い、涼しい住まい方について話し合う活動を取り入れた。本時の授業をとおして、これからどのように環境と関わりながら快適に生活していけばよいのかを考え、日々の生活で実践できるようにした。

1 題材の目標

- ・ 住まい方や衣服に関心を持ち、身の回りを快適に整えたり、日常着を気持ちよく着たりしようとする。
〈関心・意欲・態度〉
- ・ 快適な住まい方や日常着の着方について課題を見付け、その解決を目指して考えたり、自分なりに工夫したりする。
〈創意工夫〉
- ・ 快適な住まい方や日常着の着方について理解する。
〈知識・理解〉

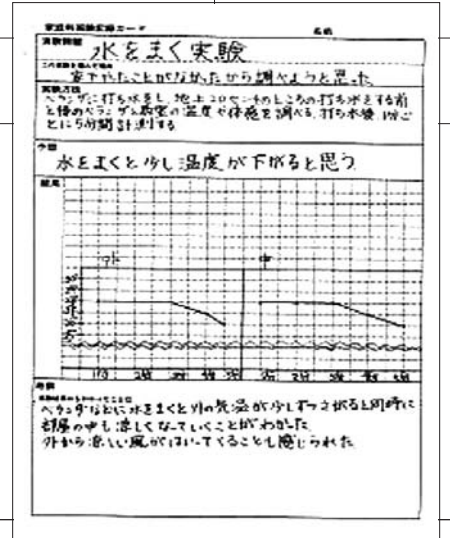
2 題材の評価規準

| 家庭生活への関心・意欲・態度 | 生活を創意工夫する能力 | 生活の技能 | 家庭生活についての知識・理解 |
|--|--|-------|---------------------------|
| 住まい方や衣服に関心を持ち、身の回りを快適に整えたり、日常着を気持ちよく着たりしようとしている。 | 快適な住まい方や日常着の着方について課題を見付け、その解決を目指して考えたり、自分なりに工夫したりしている。 | | 快適な住まい方や日常着の着方について理解している。 |

3 指導と評価の計画（6時間扱い）

| 時間 | ○ねらい・学習活動 | 評価規準・評価方法 | | | |
|--------|--|---|---|-------|---|
| | | 家庭生活への関心・意欲・態度 | 生活を創意工夫する能力 | 生活の技能 | 家庭生活についての知識・理解 |
| 1 | ○暑い季節を快適に過ごすための衣服の着方や住まい方について考える。 ・ 涼しい住まい方や着方について話し合う。 | ①夏の涼しい住まい方と衣服の着方について考えようとしている。 (発表、観察) | | | |
| 2 3 | ○夏を涼しく過ごすための衣服の着方が分かり、その方法を工夫したり考えたりする。 ・ 衣服の働きを知り、涼しく着る着方を調べる。 ・ 涼しく過ごすための衣服の | | ①涼しい着方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。 (観察、ワークシート) | | ①涼しく過ごすための衣服の着方について理解している。 (発表、ワークシート) |

| | | | | |
|-----------|---|--|---|----------------------------------|
| | 着方について考える。 | | | |
| 4・5 本時 | ○涼しく快適な住まい方について考えたり、工夫したりする。 ・涼しく快適な住まい方について観察や実験を行う。 | | ②涼しく快適な住まい方について、自分なりに考えたり、工夫したりしている。(ワークシート) | ②快適な住まい方について理解している。 (ペーパーテスト) |
| 家庭 | ○家庭での実践 | | | |
| 6 | ○涼しい住まい方について、さらに自分が家庭でできる取組を工夫する。 ・自然を利用して、涼しく生活するために、家庭で実践したことを発表し合う。 | ②自分の生活と身近な環境との関わりに関心をもち、物の使い方などを見直し、環境に配慮した生活をしようとしている。 (発表、ワークシート) | ③涼しい住まい方について課題を見付け、自分なりに考えたり工夫したりしている。 (発表・ワークシート) | |



4 本時の学習指導 (4・5/6時)

↑ 【実験記録カード】

(1) 目標

- ・涼しく快適な住まい方について理解する。 〈知識・理解〉
- ・涼しく快適な住まい方について、自分なりに考えたり、工夫したりする。 〈創意工夫〉

(2) 展開

| 時間 | 学習活動 | ○指導上の留意点 ◇評価 ☆言語活動の視点 | 資料 | | | | | | | | | | | | |
|------------------|---|---|--------------------------------|----|-------|----|----|------------|-----------|--------|------|---------------------------|-------------------------------------|--------------------------------|--|
| 5' | 1 住まいの働きについて話し合う。 | ○住まいの役割を確認し、前時に学習した夏を涼しく過ごすための着方と住まい方の関係を考えさせる。 | アンケート結果 | | | | | | | | | | | | |
| 8' | 2 アンケート結果から、家庭で行われている住まい方の工夫を知る。 3 本時の学習内容を知る。 | ○暑さを防ぐために、日光をさえぎったり、風通しをよくしたりして、涼しく住まう工夫が昔から多くの家庭で行われていることを押さえる。 ○家庭で行われている涼しく住まうための方法を実験してみることを伝える。 | | | | | | | | | | | | | |
| 快適に住まう技をさぐろう (夏) | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15' | 4 三つの実験グループに分かれ、実験内容を確認する。 | ○各班からそれぞれの実験を担当する児童を一人ずつ出し、課題班を編成する。 | | | | | | | | | | | | | |
| | | <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>通風</th> <th>明るさ・熱</th> <th>温度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実験</td> <td>風通しをよくする実験</td> <td>日光をさえぎる実験</td> <td>水をまく実験</td> </tr> <tr> <td>実験方法</td> <td>窓を開けたときと閉めたときの感じ方や温度を比べる。</td> <td>カーテン、すだれ、グリーンカーテンを使用しているところの温度を比べる。</td> <td>ベランダに打ち水をする前と後のベランダと教室の温度を比べる。</td> </tr> </tbody> </table> | 項目 | 通風 | 明るさ・熱 | 温度 | 実験 | 風通しをよくする実験 | 日光をさえぎる実験 | 水をまく実験 | 実験方法 | 窓を開けたときと閉めたときの感じ方や温度を比べる。 | カーテン、すだれ、グリーンカーテンを使用しているところの温度を比べる。 | ベランダに打ち水をする前と後のベランダと教室の温度を比べる。 | |
| 項目 | 通風 | 明るさ・熱 | 温度 | | | | | | | | | | | | |
| 実験 | 風通しをよくする実験 | 日光をさえぎる実験 | 水をまく実験 | | | | | | | | | | | | |
| 実験方法 | 窓を開けたときと閉めたときの感じ方や温度を比べる。 | カーテン、すだれ、グリーンカーテンを使用しているところの温度を比べる。 | ベランダに打ち水をする前と後のベランダと教室の温度を比べる。 | | | | | | | | | | | | |
| 20' | 5 予想を立て実験をする。 | ☆予想を立て、自分の言葉でまとめさせる。 ○温度計の数値を正確に読み、体で感じたことも記録するようにさせる。 | 実験記録カード | | | | | | | | | | | | |

家庭



〈風通しをよくする実験〉

〈日光をさえぎる実験〉

〈水をまく実験〉

- 20' 6 実験結果を「まとめヘルプカード」を活用してまとめ、考察をする。
- 7 実験結果から考察したことを課題班で発表し合う。
- 10' 8 それぞれが実験したことを学習班で報告し合う。
- 6' 9 家庭で実践したい快適な住まい方の工夫について考え、まとめる。

☆実験の方法は絵や言葉で、温度や湿度はグラフで、感じたことなどは言葉で表現するようにしてまとめさせる。

○結果と考察のまとめ方に気を付けさせる。

☆「発表ヘルプカード」(次頁参照)を参考にして、実験したことや観察したことの考察を分かりやすく説明できるようにさせる。

○課題班で確認した考察を、学習班で自信をもって発表できるようにさせる。

☆他の実験の考察を友達の発表を聞きながら、学習プリントにまとめさせる。

○東日本大震災後、節電が必要となっているが、自然を上手に利用することは、省エネルギーや節電にもつながることに気付かせる。

発表ヘルプカード
学習プリント

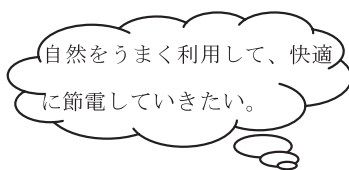
◇涼しく快適な住まい方について、自分なりに考えたり、工夫したりしている。

〈創意工夫〉(発表、ワークシート)

おおむね満足できる (B)

・涼しく快適な住まい方の工夫を学習したことを基に、これからどう実践していくか自分なりに考え、ワークシートに記述している。
→他にもできることがないか考えさせる。

- 6' 10 感想を発表する。



〈板書〉

- 11 本時に学習した内容を確認する。
- 12 次時の学習内容を知る。

○友達のを考えを聞くことで、考え方を深めたり、実践への意欲を高めたりできるようにする。

○今日学習したことを基に家庭で自然を生かした快適な住まい方を工夫するように呼びかける。

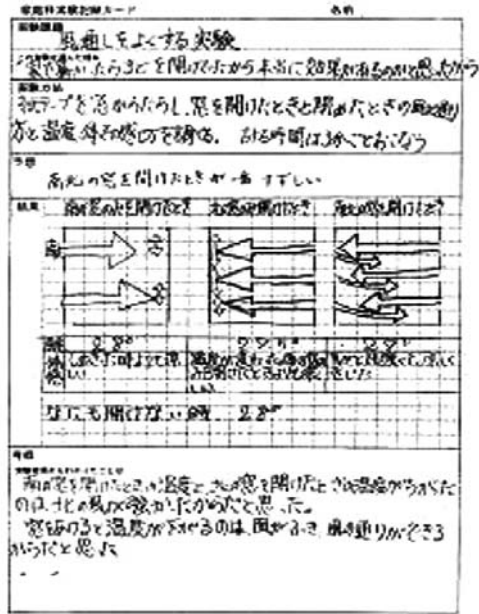
○次時は家庭での実践報告会を行うことを知らせる。

(3) 資料等

○実験記録カードの活用

実験結果を整理し、考察するために実験記録カードを活用した。このことにより、結果や考察が書きやすく、実験に取り組む時間を多く確保することができた。実験結果を記入する部分は、方眼のマス目を使用したことで、図や絵、グラフ、表、言葉などを工夫してまとめることができた。また、自分の体験を整理して説明したことで、涼しく住もうための工夫を意欲的に考えることにもつながったようだ。

実験記録カード（本時）



↑ 〈風通しをよくする実験〉

T児の学習プリント（本時）

家庭学習プリント

自然の力によって快適に住まう様をさぐる（夏）

3組 名前

○住まいの役割
快適に暮らすためにできている。

○検証実験

| 項目 | 過程 | 明らか | 熟 |
|----|--|---|---|
| 実験 | 風通しをよくする実験 | 明るさ・熱を さげざる実験 | 水をまく実験 |
| 考察 | この実験でわかったことは 南側と北側を 両方開けると すずしくなること がわかりました。 | この実験でわかったことは Tリーナーカーテンは どをかつとす ずしくなること がわかりました。 | この実験でわかったことは べら：何なににも まともめずすずく なていてことわかり ました。 |

○涼しい住まい方について家で実践してみたいことを書きましょう。

わたしは、これから 庭に水をまいて打水をして窓を南側と北側
で開けて、アまるたTリーナーカーテンをどをかつとすずしく
なす。自然の力を使って、節電していければいい
なと思います。

本時の評価規準〈創意工夫〉

「十分満足できる状況」(A)と判断される児童の姿

涼しく快適な住まい方について調べたことから、二つ以上の視点で住まい方の工夫をワークシートに記述している。または、自然の力を利用して工夫する方法を記述している。

T児においては、通風と温度の二つの視点から涼しい住まい方の工夫の記述があり、自然の力を利用して節電していることとする記述もあることから「十分満足できる状況」(A)と判断した。

○発表の場の工夫

実験のまとめでは、実験結果から分かったことを課題班の中で発表し合うことで、さらに考察を深めた。さらに、もとの学習班に戻り、各自が行ってきた実験とその結果や考察について報告し合った。



↑ 学習班での報告の様子

発表ヘルプカード

- ①課題
 - ②調べる方法
「実験のやり方は・・・です。」
 - ③結果
「実験の結果は・・・でした。」
 - ④考察
「実験の結果から分かったことは・・・です。」
- * ゆっくりと大きな声できちんと話そう。
* 図や絵を指し示しながら発表しよう。

○ヘルプカードの活用

実験結果を整理する際には、参考となるまとめ方（絵、図、表、グラフ）が書いてある「まとめ方ヘルプカード」を活用した。結果や考察を学習班にもどって発表する際には、「発表ヘルプカード」を活用した。ヘルプカードの活用は、児童が自信をもって発表するのに役立った。

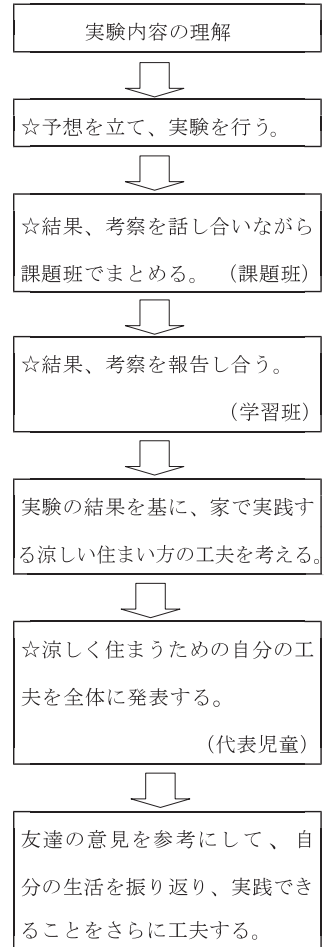
5 実践の成果

三つの実験結果から、児童は自然を上手に利用することで涼しく快適に住まうことができることを理解した。

さらに、友達と自分の意見を伝え合う中で、友達の見解を参考にしてさらに工夫できることを考え、思考を深めることができた。学習の流れは、上記に示したように学習班から課題班に分かれて実験をし、実験結果を学習班に持ち寄り、報告し合うという流れである。このように学習形態を工夫したことで、自分の責任を果たそうと生き生きと発表する児童の姿が多くみられた。また、自然を上手に利用して涼しい住まい方を工夫していこうという意欲の高まりが、ワークシートの記述からも読み取れた。

学習の流れ

(☆言語活動を取り入れた場面)



事例2 小・中の学習内容の系統性を見通し、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を図る事例

実践のねらいと手立て

| 題材名 | A | B | C | D | 編成要領 | 評価資料 |
|--------------------|---|---|--------|---|------|-----------|
| 挑戦しよう ミシン縫い (第5学年) | | | (3)アイウ | | P106 | P145 P152 |

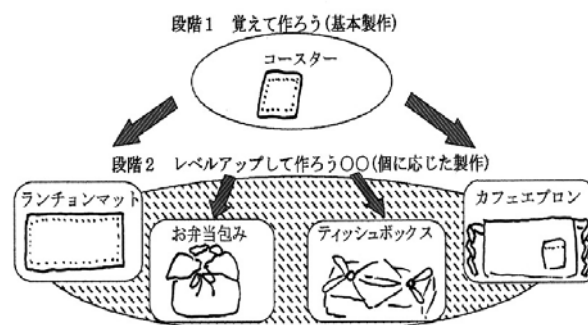
本題材は、内容C(3)アイウの事例である。この「生活に役立つ物の製作」は、2学年間をとおして、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図っていく学習となっている。第5学年で初めて扱うミシンでの製作を、段階的に学べるような展開とし、無理なく基礎的・基本的な技能等を身に付け、製作の楽しさを味わうことをねらいとしている。

「ミシンで縫う作業は楽しいが、ミシンのセッティングに自信がない」という児童が多い。ミシンのセッティングは製作における一番の課題であり、自信をもってできるようにすることが重要である。ここでは、ミシンの「セットアップ検定」を行うことで、児童一人一人が確実にミシン操作ができるようになったか確認していく。

また、「製作に関する学習での基礎的な技能等の確認表」(P135参照)を活用し、2学年間をとおして身に付けなければならない製作の技能を児童自身や教師が確認しながら学習を進めていくようにした。

製作の学習で取り扱う教材は、難易度や児童に身に付けさせたい製作の技能や学習内容の系統性等を把握し、決めていくことが大切である。簡単な物から難しい物へと学年に応じて発展させていくようにすることが、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着となる。

ここでは、初めてのミシンでの製作となる第5学年の題材であるので、段階1を小題材「覚えて作ろう」とし、ミシン操作や製作の基礎を学びながら、全員でコースターを製作する。次に、段階2を小題材「レベルアップして作ろう〇〇」とし、コースターと同様の製作の手順でできるランチョンマットやお弁当包みなどから、自分の生活に役立つ物を製作できるよう指導計画を作成した。



1 題材の目標

- ・布を用いた生活に役立つ物の製作に関心をもち、ミシンを用いた直線縫いで製作し、活用しようとする。 (関心・意欲・態度)
- ・布を用いた生活に役立つ物の製作について考えたり、自分なりに工夫したりする。 (創意工夫)
- ・布を用いた生活に役立つ物の製作ができる。 (技能)
- ・布を用いた生活に役立つ物の製作の手順や製作に必要な用具の安全な取扱い方を理解する。 (知識・理解)

2 題材の評価規準

| 家庭生活への関心・意欲・態度 | 生活を創意工夫する能力 | 生活の技能 | 家庭生活についての知識・理解 |
|---|---|----------------------|---|
| 布を用いた生活に役立つ物の製作に関心をもち、ミシンを用いた直線縫いで製作し、活用しようとしている。 | 布を用いた生活に役立つ物の製作について考えたり、自分なりに工夫したりしている。 | 布を用いた生活に役立つ物の製作ができる。 | 布を用いた生活に役立つ物の製作の手順や製作に必要な用具の安全な取扱い方を理解している。 |

3 指導と評価の計画 (11時間扱い)

| 時間 | ○ねらい・学習活動 | 評価規準・評価方法 | | | |
|----|---------------------------------------|--------------------------------------|-------------|-------|----------------|
| | | 家庭生活への関心・意欲・態度 | 生活を創意工夫する能力 | 生活の技能 | 家庭生活についての知識・理解 |
| 1 | ○身の回りの生活にある布製品に関心をもち、ミシン縫いのよさについて考える。 | ①身の回りの生活にある布製品に関心をもちている。 (ワークシート) | | | |


| | | | | |
|------------------|---|--|---|---|
| 2 3 4 5 | ○製作に必要な用具の使い方 ・方を理解し、ミシンを安全に 使ってコースターを製作する。 ・針のつけ方、上糸のかけ方 ・下糸の巻き方、縫い始め 縫い終わり、しるしの付け方 等を理解する。 ・セットアップ検定を行う。 | | ①ミシンの安全な取扱いができる。 ②ミシンを用いて直線縫いをする ことができる。 (セットアップ検定の様子・製 作品) | ①製作に必要な材料や用具が分かる。 (ペーパーテスト) ②ミシンの基本的な操作が分かる。 (セットアップ検定の様子・ペー パーテスト) |
| 6 本 時 | ○「レベルアップして作ろう ○○」の製作計画を立てる。 ・製作計画表を記入する。 | ①製作する物やその製作計画につ いて考えたり、自分なりに工夫 したりしている。 (製作計画表) | | ③製作手順について理解している。 (ペーパーテスト) |

4 本時の学習指導 (6/11時)

(1) 目標

- ・製作手順について理解する。 〈知識・理解〉
- ・製作する物やその製作計画について考えたり、自分なりに工夫したりする。 〈創意工夫〉

(2) 展開

| 時間 | 学習活動 | ○指導上の留意点 ◇評価 | 資料 |
|-----|--|---|--|
| 7' | 1 コースター作りまでの学習を振り返る。 | ○ミシン検定の結果に触れながら、ミシンの操作やコースター作りでうまくいかなかったことなどについてグループで自由に話すようにさせる。 | ミシン拡大図 安全指導についての提示物 |
| 5' | 2 各自が自分の課題を確認する。 | ○コースター作りでうまくいかなかった所を個々の児童に課題として意識させ、新たな製作に取り組みさせる。 ○製作技能確認表を用いて自分の技能の定着度を振り返る。 | ワークシート |
| 25' | 3 「レベルアップして作ろう○○」の製作手順を考える。  | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「レベルアップして作ろう○○」の製作計画を立てよう。</div> ○製作物ごとにグループ編成し、学び合えるようにする。 ○実物見本を見ながら製作手順を考え、不織布とホチキスで試し作りをし、確認していくようにさせる。 ○コースター作りの手順を参考にまとめてさせる。 ○調べて気付いた製作のポイントを、実物投影機を用いて全体に説明させる。 | 学習カード 段階標本 教科書 裁縫セット 実物見本 ティッシュボックスカバー ランチョンマット お弁当包み カフェエプロン 不織布 ホチキス |
| | | ◇製作する物やその製作計画について考えたり、自分なりに工夫したりしている。 〈創意工夫〉 (製作計画表) | |
| | おおむね満足できる (B) | ・コースターの製作手順をもとに、自分が製作する物の製作計画を考え、製作計画表に記入している。 →形の工夫や製作作業中の工夫、飾りの工夫などの例を提示し、自分なりの工夫を考えさせる。 | |
| 6' | 4 振り返りをする。 | ・本時の学習内容への自分の取組について振り返りをする。 | |
| 2' | 5 次時の学習内容を知る。 | ・必要な材料を用意してくることを伝える。 | |

(3) 資料

この製作計画表は、本題材の段階1でのミシン操作とコースター作りを振り返り、段階2の「レベルアップして作ろう」の課題へとつなげることができるよう工夫されている。

K児の製作計画表

ミシン縫いに挑戦！ミシンで作ろう！ 5年2組 名前

| 製作 | ふり返り |
|------------------------------------|-------------------------------------|
| 1 できあがりの大きさを決める。 | <input checked="" type="checkbox"/> |
| 2 布に印をつける。(ぬいしろを加える。) | <input checked="" type="checkbox"/> |
| 3 布を縫う。 | <input checked="" type="checkbox"/> |
| 4 まち針をためて、ぬきながらぬう。(しつけ機で縫ってミシン縫う。) | <input checked="" type="checkbox"/> |
| 5 裏に返して、角を整える。 | <input checked="" type="checkbox"/> |
| 6 まわりを1周縫う。(ミシンで縫う) | <input checked="" type="checkbox"/> |
| 7 仕上げをする。(斜まつアリの付け) | <input checked="" type="checkbox"/> |

コースター作りを終えて

と、とても大変でした...
次はかざるときはほめて上手に縫ったほうがいいなと思います。
がんばりました。

ステップアップのための課題

大きくぬってきれいな見た目になるようにすること。

| 製作 | ふり返り |
|-----------------|-------------------------------------|
| 1 できあがりの大きさを決める | <input checked="" type="checkbox"/> |
| 2 布を縫う | <input checked="" type="checkbox"/> |
| 3 ミシンでぬう | <input checked="" type="checkbox"/> |
| 4 4つの角を折っても | <input checked="" type="checkbox"/> |
| 5 を通す部分をぬう。 | <input checked="" type="checkbox"/> |
| 6 角を切るまで。 | <input checked="" type="checkbox"/> |
| 7 仕上げをする | <input checked="" type="checkbox"/> |

製作を終えて

コースターを作った時にははじめてミシンを縫ったけど、こんなにきれいに縫うのははじめてです。ミシンは、お母さんが縫ったのと同じように縫うことができました。ミシンは、お母さんが縫ったのと同じように縫うことができました。

ミシンの学習を振り返ろう

楽しく製作できましたか (3) 2・1
工夫して製作できましたか (3) 2・1
縫い縫いが上手にできましたか (3) 2・1
ミシン一人で使えますか (3) 2・1
ステップアップができましたか (3) 2・1

《セットアップ検定》

一人で、上糸をかけ、針を付け、下糸を引き上げ、コースターの外周を縫う。ペアになり、相互に見合いながらかかる時間を計る。

評価規準 (技能)

(検定の様子、製作品)

◇ミシンの安全な取扱いができる。(5/11時)

《十分満足》・・・ミシンを正しく安全にセットアップし、角に針を落として、縫う方向を変え直線縫いができる。

《おおむね満足》・・・資料等を見ながら、安全にミシンのセットアップができ、直線縫いができる。

第2時から第5時で記入

第6時以降で記入

K児においては、セットアップが短時間で正しくできていて、さらに三か所の角を直角に縫っていたことから、「十分満足できる」状況(A)と判断した。

評価規準 (創意工夫) (製作計画表) (6/11時)

◇製作する物やその製作計画について考えたり、自分なりに工夫したりしている。「十分満足できる」状況(A)と判断される児童の姿

コースターの製作手順を基に、自分が製作する物の製作計画を考え、形や縫い方、製作手順など自分なりに工夫したい点を製作計画表に記入している。

K児においては、きれいな見た目になるようにまっすぐ縫うという縫い方の工夫やお弁当包みの容量を大きくするための形の工夫が製作計画表に記入されていたことから、「十分満足できる」状況(A)と判断した。

5 実践の成果


基本製作のコースターは、初めてミシンでの製作をする児童にとっては、形が小さく多少扱いにくい面もあるようだ。しかし、練習布で直線縫いを練習するのとは違い、作品として仕上がることで児童に達成感をもたせることができた。また、短時間で製作できるため、意欲的に二枚目を作る児童もみられた。さらに、セットアップ検定では、スムーズなセットアップをするために繰り返し練習して検定に臨んだり、合格を目指して集中して学習に取り組んだりする児童がみられ、技能の確実な習得に効果的であった。

コースターの基本製作を基に、次の製作にステップアップしていく学習の流れは、児童が個々の製作に自信をもって取り組むことができたり、学んだ技能を応用して様々な製作物へと発展させたりすることができた。

製作に関する学習での基礎的・基本的な知識及び技能の習得においては、小・中学校の連携を図り、繰り返し学習する必要がある。そこで、下のような確認表を作成し、技能等を段階的に身に付けることができるようにした。また、確認表の□の中に教師や児童がチェックをして2学年間の成長を記録することができ、継続して中学校でも活用できるようにした。なお、「小学校安全指導の手引き」(平成14年3月)も参照されたい。(県 HP 参照)

製作に関する学習での基礎的な技能等の確認表

☑重点をおく指導内容

| 題材・学年 技能 | 生活に役立つ物 | | 生活を豊かにする物 |
|-------------|---|--|---|
| | 第5学年 | 第6学年 | 中学校 |
| 玉結び・玉どめ | 玉結び <input type="checkbox"/> 針穴から糸が抜けないように糸端を結ぶ。 <input type="checkbox"/> 針穴から糸が抜けないように糸端を結ぶ。 | <input type="checkbox"/> 人さし指の先に糸を巻き、輪になった糸をより合わせて親指と中指で玉結びをする。 | <input type="checkbox"/> 人さし指の先に糸を巻き、輪になった糸をより合わせて親指と中指で玉結びをする。 |
| | 玉どめ <input type="checkbox"/> 縫い終わりに針をあて、糸を巻いて玉どめをする。 | <input type="checkbox"/> 縫い終わりに針をあて、糸を巻いて、糸端を布から浮かせないように玉どめをする。 | <input type="checkbox"/> 縫い終わりに針をあて、糸を巻いて、糸端を布から浮かせないように玉どめをする。 |
| 布を | しるしの付け方 <input type="checkbox"/> ものさしで正しく寸法を計り、しるしを付ける。 <input type="checkbox"/> 縫いしろのしるしを付ける。 <input type="checkbox"/> 角は十文字にしてしるしを付ける。 | <input type="checkbox"/> 布地や縫い方に応じた寸法を考えて、正しくきれいなしるしを付ける。 | <input type="checkbox"/> 布地や縫い方に応じた寸法を考えて、正しくきれいなしるしを付ける。 |
| | 布の裁ち方 <input type="checkbox"/> 裁ち切り線に合わせて切る。 <input type="checkbox"/> 裁ち切り線に合わせて切る。 | <input type="checkbox"/> 裁ち切り線に合わせ、二枚の布地をずらさないように能率よく切る。 | <input type="checkbox"/> 裁ち切り線に合わせ、二枚の布地をずらさないように能率よく切る。 |
| | まち針の打ち方 <input type="checkbox"/> まち針の向きをそろえて打つ。 <input type="checkbox"/> まち針の向きをそろえて打つ。 | <input type="checkbox"/> まち針の向きをそろえ、正しい順番で打つ。 | <input type="checkbox"/> まち針の向きをそろえ、正しい順番で打つ。 |
| 縫う | 手縫い <input type="checkbox"/> ひと針ずつ縫う  <input type="checkbox"/> 布を縫い合わせる。なみ縫い(2~3針続けて縫う程度)、返し縫い、かがり縫い ミシンの扱い方 <input type="checkbox"/> 針の取り付けや取り外し上糸や下糸の準備をする。 ※事例2との関連項目(セットアップ検定で確認) ミシン縫い <input type="checkbox"/> 直線を縫ったり、縫い初めや縫い終わりを返し縫いしたりする。角の縫い方を考えた処理をする。 ※事例2との関連項目 アイロンの使い方 <input type="checkbox"/> アイロンを安全に使い、折り目をつけたら、しわをのばしたりする。 | <input type="checkbox"/> 布の厚さや用途に応じて縫い目や布端の始末の仕方を工夫し、縫い目をそろえて丈夫に縫い合わせる。 <input type="checkbox"/> 針の取り付けや取り外し上糸や下糸の準備を一人で早くする。 <input type="checkbox"/> しるし通りに直線を縫ったり、針目を変えて縫ったり、きれいに返し縫いをしたりする。(手縫いとミシン縫いを適宜使い分けて縫う) | <input type="checkbox"/> 布の厚さや用途に応じて縫い目や布端の始末の仕方を工夫し、縫い目をそろえて丈夫に縫い合わせる。 <input type="checkbox"/> 小学校での学習を踏まえ、使用前の点検、使用後の手入れとしまい方、簡単な調整ができる。 <input type="checkbox"/> 姿勢や動作に気を付け、作業の正確さや能率、作業環境の整備や安全にも留意する。 まつり縫い <input type="checkbox"/> 1針ずつ縫い、布の表面にでないようにする。 ほころび直し <input type="checkbox"/> 手縫いとミシン縫いを適宜使い分けて縫う。 |
| | <input type="checkbox"/> 布の種類に合わせてアイロンの温度を調節する。 | <input type="checkbox"/> 布の種類に合わせてアイロンの温度を調節する。 | <input type="checkbox"/> 布に合った使い方ができるようにするとともに、火傷などに留意し、使用中、使用後の安全に留意する。 |
| | ボタン付け <input type="checkbox"/> ボタンの種類に合わせて付ける。(二つ穴、四つ穴、足つき) <input type="checkbox"/> ボタンの種類に合わせて丈夫に付ける。 | <input type="checkbox"/> ボタンの種類に合わせて、縫い目をそろえてきれいに丈夫に付ける。 | スナップ付け <input type="checkbox"/> 布から浮かないように、丈夫に付ける。 |
| 作品例 | <ul style="list-style-type: none"> ・ネームプレート ・コースター ・ポケットティッシュケース ・ランチョンマット ・ウォールポケット ・カフェエプロン ・お弁当包み | <ul style="list-style-type: none"> ・エプロン ・手さげ袋 ・ナップザック ・クッション | <ul style="list-style-type: none"> ・防災グッズ ・T型シャツ ・ハーフパンツ |

家庭

事例3 伝統の食事である米飯とみそ汁を中心とした食事に視点を当て、食生活を工夫する能力を育てる事例
実践のねらいと手立て

| 題材名 | A | B | C | D | 編成要領 |
|--------------------|---|---------------------|---|-------|------|
| 1食分の献立を考えよう (第6学年) | | (1)アイ (2)アイウ (3)アイウ | | (1) イ | P109 |

本題材は、「日常の食事と調理の基礎」の学習として、内容Bの(1)アイ(2)アイウ(3)アイウと内容D(1)イとの関連を図った事例である。ここでは、日常の食事と調理の学習をとおして、日常の食事への関心を高め、食事の大切さに気付くとともに、調和のよい食事と調理や適切な買物の仕方に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、食生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を育てることをねらいとしている。

そこで、食事の振り返りや実習をとおして日常の食事への関心を高め、食事の役割を知り、その大切さに気付くとともに楽しく食事をするための工夫を考えさせる。そのために、栄養教諭と一緒に授業を展開し、身近な給食の献立を取り上げ、1食分の献立を考えさせた。献立作りの際に栄養教諭から専門的な立場でアドバイスを受けることで、食に対する意識を一層高めていくことができる。献立を立てるときには、日本の伝統食でもある米飯とみそ汁を中心とした1食分の献立を立てさせ、2学年間の食に関する学習のまとめとする。


1 題材の目標

- ・調理や適切な買物の仕方に関心をもち、栄養を考えた食事のとり方を考えたり、日常よく使用される食品を用いた調理をしたりしようとする。 〈関心・意欲・態度〉
- ・日常よく使用される食品の適切な買物の仕方、栄養を考えた食事や調理について考えたり、自分なりに工夫したりする。 〈創意工夫〉
- ・購入しようとする物の品質や価格などの情報を集め整理することや1食分の調理ができる。 〈技能〉
- ・食事の役割や大切さについて理解するとともに、日常よく使用される食品の適切な買物の仕方、栄養を考えた食事や調理について理解する。 〈知識・理解〉

2 題材の評価規準

| 家庭生活への関心・意欲・態度 | 生活を創意工夫する能力 | 生活の技能 | 家庭生活への知識・理解 |
|---|--|---|---|
| 調理や適切な買物の仕方に関心をもち、栄養を考えた食事のとり方を考えたり日常よく使用される食品を用いた調理をしたりしようとしている。 | 日常よく使用される食品の適切な買物の仕方、栄養を考えた食事や調理について考えたり、自分なりに工夫したりしている。 | 購入しようとする物の品質や価格などの情報を集め整理することや調理に関する基礎的・基本的な技能を身に付けている。 | 食事の役割や大切さについて理解するとともに、日常よく使用される食品の適切な買物の仕方、栄養を考えた食事や調理に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。 |

3 指導と評価の計画 (11時間扱い)

| 時間 | ○ねらい・学習活動 | 評価規準・評価方法 | | | |
|---|---|---|--|---|--|
| | | 家庭生活への関心・意欲・態度 | 生活を創意工夫する能力 | 生活の技能 | 家庭生活についての知識・理解 |
| 1 | ○自分の食生活の問題点に気づき、よりよい食事のとり方について考える。 ・休日の昼食メニューや食事のマナーの問題点を話し合う。 | | ①日常の食事を見直し、楽しく食事をするについて考えたり、自分なりに工夫したりしている。 (ワークシート) | | ①食事の役割や日常の食事の大切さについて理解している。 (ペーパーテスト) |
| 2 | ○1食分の食事のとり方に関心をもち、栄養を考えた食事のとり方をしようとする。 ・1週間分の食事調べから、自分の食生活について振り返る。 | ①1食分の食事のとり方に関心をもち、栄養を考えた食事のとり方をしようとしている。 (発表・ワークシート) | |  | |
| 3 本時 | ○栄養のバランスのよい1食分の献立の立て方を理解し、1食分の献立について考え、工夫する。 ・給食の献立から学んだことを生かし、米飯とみそ汁に合う和食の献立を考える。 | | ②米飯とみそ汁を中心とした三つのグループの食品のそろった1食分の献立について考えたり、自分なりに工夫したりしている。 (ワークシート) | | ②栄養バランスのよい1食分の献立の立て方について理解している。 (ペーパーテスト) |
| ※ 第4・5時 自分で作ってみたい、米飯とみそ汁を中心とした朝食の献立を考える。 第6時 朝食の献立を立て、実習計画を班で話し合う。 | | | | | |
| | ○調理実習で使う材料の選び方や購入の仕方について考える。 | | ⑤購入しようとする物の品質や価格などの | ④購入しようとする物の品質や価格などの | |

| | | | | | |
|--------------|---|---|---|--|--|
| 7 ・ 8 | ・野菜や加工食品を選ぶ時の品質やマークの見方について知る。 | | 情報を活用し、目的に合った物の選び方や買い方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。(ワークシート) | 情報を集め、整理することができる。(ワークシート) | |
| 9 ・ 10 | ○調理に必要な材料や手順に関心をもち、材料や目的に応じたゆで方やいため方ができる。 ・一人一調理(おかずのみ)をペアで交代で行う。 | ③調理に必要な材料や手順に関心をもち、材料や目的に応じて調理をしようとしている。(観察・ワークシート) |  | ②調理に必要な用具や食器及びこんろを安全に取扱うとともに材料や目的に応じたゆで方やいため方ができる。(観察、調理したものの写真) | |
| 家庭 | ○家庭実践 | | |  | |
| 11 | ○調理に関心をもち、実践報告会での成果を生かして、さらに家庭での実践に取り組もうとする。 ・自分で考えた献立を家庭で調理し、その報告を行う。 | ④調理に関心をもち、実践報告会での成果を生かして、さらに家庭での実践に取り組もうとしている。(発表・ワークシート) | | | |

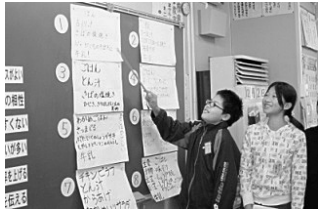
4 本時の学習指導(3/11時)

(1) 目標

- ・米飯とみそ汁を中心とした三つのグループの食品のそろった1食分の献立について考えたり、自分なりに工夫したりする。 <創意工夫>
- ・栄養のバランスのよい1食分の献立の立て方について理解する。 <知識・理解>

(2) 展開

| 時間 | 学習活動 | ○指導上の留意点 ◇評価 | | 資料 |
|-----|--|--|---|--|
| 5' | 1 給食の献立のよさについて考える。 ・栄養のバランスがよい。 ・野菜が多く入っている。 ・牛乳で無機質がとれる。 | 〈T1 担任〉 ○給食の献立を提示し、給食のよさを考えさせる。 ○前時の食事調べで米飯とみそ汁が多かったことを想起させる。 | 〈T2 栄養教諭〉 ○米飯とみそ汁に合うおかず、パンに合うおかずに気付かせる。 ○和食献立のよさを知らせる。 ○給食の献立を立てる際のポイントを示す。 | 給食の献立の写真(洋食・和食) |
| 20' | 2 本時の学習内容を知る | ○給食の献立を参考に米飯とみそ汁に合う一食分の献立を立てることを考えさせる。 | | 和食のよさの掲示資料 |
| | | ご飯とみそ汁に合う献立を考えよう。 | | |
| | 3 献立の立て方を知る。 ・立てる手順 ①主食を決める。 ②汁ものを決める。 ③主なおかずを決める。 ④そのほかのおかずを決める。 ・食材を調べ、栄養のバランスを確認する。 | ○献立の立て方を給食の米飯とみそ汁やおかずの写真を使って説明する。 ○ある日の給食献立(和食)を使って栄養バランスの確認の仕方を知らせ、不足したものをどのように補ったらよいかを説明する。 | ○昔の食事は、一汁三菜という構成であったことを知らせる。 ○米飯とみそ汁は、日本人が昔から食べてきた伝統の食事であることを再確認させる。 ○地域や旬の食材や色どりについても触れる。 ○献立の立て方が分かったので、給食のリクエスト献立を和食で立てることを伝える。 | 和食の配膳図 |
| | 4 米飯とみそ汁に合うリクエスト献立を考える。 | ○考える手順、ワークシートの使い方、時間、使える資料などを伝える。 | ○書き込みに手間取っている児童には、給食の写真を基に組み合わせよう助言する。 | 米飯、みそ汁、おかずの写真(掲示用) ワークシート 数か月分の献立表 |

| | | | |
|--|---|--|--|
| ◇米飯とみそ汁を中心とした三つのグループの食品のそろった1食分の献立について考えたり、自分なりに工夫したりしている。 ＜創意工夫＞（ワークシート） | | | |
| おおむね満足できる (B) | ・給食の献立から、1食分の献立の立て方を理解し、栄養のバランスのよい献立をワークシートに記述している。 →学習した献立の立て方や栄養のバランスの確認の仕方、献立の立て方のポイントを具体例を示しながら一緒に確認し、アドバイスする。 | | |
| 10' | 5 グループで発表し合い、栄養のバランスがよいかを確認する。 6 おすすめポイントを中心に数名の献立を全体で発表する。 | ○栄養のバランスを確認し、それぞれの献立にどのような工夫があるか考えさせる。よくするための工夫があるかを見るよう指示する。  | ○栄養のバランスがよいか、アドバイスする。 ○発表の中のキーワードを板書していく。 |
| 10' | 7 友達の発表や栄養教諭のアドバイスを聞き、それを参考に献立を修正する。 8 本時の学習を振り返る。 9 次時の学習内容を知る。 | ○献立作成で学んだことを、自分の健康を守るために、食生活に生かしていくことが必要であることを伝える。 ○今日の学習を次時の米飯とみそ汁に合う朝食の献立作成に生かすことを知らせる。 | ○工夫されている点を確認し、さらによくするためのポイントをアドバイスする。 ○児童が考えたリクエスト献立を参考に給食の献立を作成することを伝える。 |

画用紙
油性ペン

(3) 資料 ＜A児のワークシート＞（本時）

ご飯とみそ汁にあう給食のこん立てを考えよう

年 組 名前()

| | | | |
|---|--|--------------------------|-----------------------------|
| 献立名 栄養満点こん立 | 和食のよさ 日本の伝統的な食事 栄養のバランスがよい 脂っぽくない | | |
| ①リクエスト給食の和食の献立を考えよう。 | ② ①で考えたこん立ての材料を下の表に書こう。 | | ③修正点を書こう。 |
| | 主に体をつくるものになる たんぱく質 無機質 | 主にエネルギーのもとになる 炭水化物 脂肪 | 主に体の調子を整えるものになる ビタミン 無機質 |
| 主食 ごはん | | 米 | |
| 汁物 とん汁 | みそ ぶた肉 | じゃがいも | 糖質でとれる小松菜とおぎをいれる。 |
| 主なおかず さばの塩焼き | さば | | |
| その他のおかず ひじきののり | ひじき 大豆 | | ひじきののりに切り干し大根をいれて栄養アップする |
| 飲み物 牛乳 | 牛乳 | | |
| おすすめポイント みそ汁をとん汁にして、栄養満点にした。 | | | |
| 他の皿の感想やアドバイス 栄養のバランスがよい。 色どりを工夫すると、見た目もおもしろいそうなおん立になる。 | 改善したこと 色どりをよくするために、地元でとれる野菜を入れた。小松菜とおぎは、これから旬なのでさらに栄養満点になる。 | | |
| 自己評価 1食分の献立の立て方がわかったか。 <input type="checkbox"/> よくわかった <input type="checkbox"/> だいたいわかった <input type="checkbox"/> もう少しわかった <input type="checkbox"/> できなかった 1食分の献立を立てることができたか。 <input type="checkbox"/> よくできた <input type="checkbox"/> だいたいできた <input type="checkbox"/> もう少し <input type="checkbox"/> できなかった | | | |

評価規準 ＜創意工夫＞（ワークシート）

「十分満足できる」状況（A）と判断される児童の姿

三つのグループの食品のそろった1食分の献立を立てるとともに、色どりや味のバランスなども考えて食品を加えたり、みそ汁の実やおかずを変えたりするなどの改善をしている。

A児においては、三つのグループの食品のそろった1食分の献立を立て、さらに栄養のバランスをよりよくしようと旬の食材を加えたり、色どりをよくするために小松菜を加えたりする工夫が記述されていることから、「十分満足できる」状況（A）と判断した。

＜栄養教諭が和食のよさを説明している様子＞



＜和食のよさ＞

- ・栄養のバランスがよい。
- ・おかずとの相性がよい。
- ・脂肪が少ない。
- ・食物繊維が多い。
- ・食文化を伝える。
- ・地元の食材が生かせる。

5 実践の成果

米飯とみそ汁に合う1食分の献立を考え、和食のよさに触れたことで、児童は、伝統の食事を意識し、受け継いでいこうとする意欲につながられたようだ。また、給食のおかずを基に献立を立てたことから、食卓にのぼりにくい乾物や豆類の調理についても関心をもつ機会となった。また、和食のよさを学んだ児童は、野菜を多くとるために、みそ汁の実を工夫することや、ゆで野菜のごまあえ、おひたしなどを加える工夫をすることができた。さらに和食のよさや地域の野菜も取り入れて朝食の献立を立てる学習につなげていった。栄養教諭とのチーム・ティーチングという学習形態を工夫したことで、児童の食に関する意識を高めることができ、実践に生かそうという意欲へとつながっていた。

事例4 2学年間を見直し、自分の成長への気づきを段階的に深め、家庭生活と家族の大切さに気付かせる事例

実際のねらいと手立て

| 題材名 | A | B | C | D | 編成要領 | 評価資料 | 指導資料 |
|-------------------|------|---|---|---|------|------|------|
| 振り返ろう できるようになったこと | (1)ア | | | | P111 | P146 | P128 |

本題材は内容 A(1)アの事例である。ここでは、自分の成長を自覚することとおして、家族との関わり大切さを知り、衣食住などの生活の営みに関心をもつことにより、家庭生活と家族の大切さに気付くことをねらいとしている。そのため、第5学年の最初に第4学年までの内容を踏まえ、2学年間の学習の見直しをもてるようにする。そして、自分ができるようになりたいことや2年後の自分のイメージをもてるようにする。さらに、ここでは学期や学年の終わりなど学習の区切りの時期に自分の成長への気づきが深まるように、振り返りの時間を位置付けている。

第5学年の最後の振り返りの時間では、最初に立てた目標にどれだけ近づくことができたか、自分自身の成長を振り返る時間とし、これまでに学習したワークシートから、できるようになったことが増えてきた喜びを実感するとともに、次へのさらなる目標をもつことができるようにした。

学習を振り返り自分の成長を実感し、家庭での実践に結び付ける年間指導計画例（編成要領 p111参照）

| 月 | 第5学年 | 内容 | 月 | 第6学年 | 内容 |
|----|-------------------------------|--------------|----|---|--------------|
| | 実践事例① | | 4 | ○見つめよう 家庭生活 (0.5) | A(1)ア |
| 4 | ①知ろう 2年間の家庭科学習(2) | A(1)ア | | ・生活時間の使い方について振り返り、1年間でできるようになったことを生かして家庭の仕事を工夫して行う。 | (2)アイ |
| | ・自分の成長と家庭生活との関わりや家庭科の学習内容を知る。 | A(2)アイ | 5 | ○からだ生き生き食事計画 | B(1)アイ |
| 5 | ○家庭の仕事 よりよい時間の使い方 | B(1)アイ | 6 | | (2)アイウ |
| | ○調理実習はじめの一步 | (3)アイウオ | | | (3)アイウエ |
| 6 | | D(1)イ(2)ア | 7 | ○布で作って生活に生かそう | C(3)アイウ |
| | ○手縫いにチャレンジ | C(3)アイウ | | ○夏休みチャレンジ報告会(1) | A(1)ア |
| 7 | 実践事例② | | 9 | ・夏休みの家庭実践の報告会を行う。 | |
| 9 | ②夏休みチャレンジ報告会 (0.5) | A(1)ア | | ○いつでも快適わたしの衣服 | C(3)アイ |
| | ・夏休みの家庭実践の報告会を行う。 | | 10 | ○つくろう家族の快適住まい | C(2)イ |
| 10 | ○ミシン縫いにチャレンジ | C(3)アイウ | 11 | | |
| 11 | ○毎日の食事を見つめよう | B(1)アイ | 12 | ○冬休みチャレンジ報告会 | A(1)ア |
| | | (2)アイ | 1 | ・冬休みの家庭実践の報告会を行う。 | |
| 12 | | (3)アイエ | 2 | 実践事例④ | |
| | ○冬休みチャレンジ報告会 (0.5) | A(1)ア | 3 | ④生かそう 自分にできること (1.5) | A(1)ア |
| 1 | ・冬休みの家庭実践の報告会を行う。 | | | ・2学年間の自分の成長と家庭生活との結び付きを考え、さらにくわしく調べたいことについて学習計画を立て、分かったことやできるようになったことを発表する。 | (3)アイ |
| | ○身の回りクリーン作戦 | C(2)ア | | ・2学年間の学習を振り返り、中学校の学習でも生かせることについて考える。 | D(2)ア |
| 2 | ○考えよう 物の選び方・買い方 | D(1)アイ | | | |
| 3 | 実践事例③ | | | | |
| | ③振り返ろう できるようになったこと(1) | A(1)ア | | | |
| | ・1年間の学習内容や自分の成長を振り返る。 | | | | |

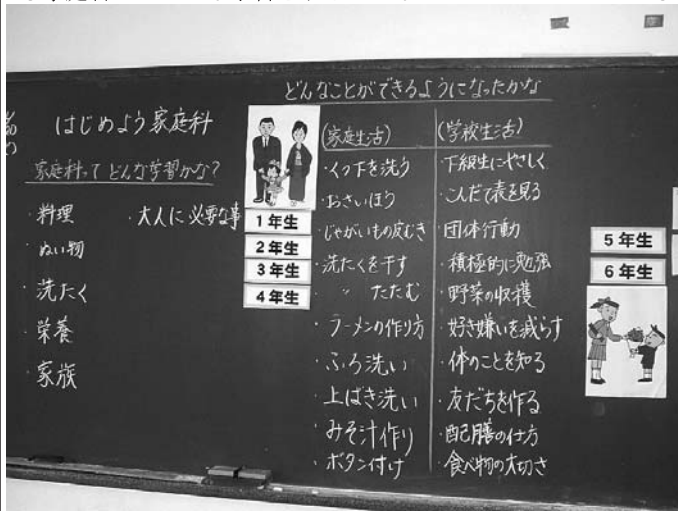
家庭

※網かけの部分は、「A 家庭生活と家族」の(1)アの学習内容を取扱った題材である。

※実践事例①～④は (P140～P141) で紹介する事例である。

実践事例① 知ろう 2年間の家庭科学習 (2時間扱い)

●家庭科ってどんな学習をするのかな？



●2年後、どんな自分になりたいですか？

2年後になりたい自分の姿を記入し、その自分に近づくためにこれからの学習をがんばっていきましょう。そして、できるようになったことをこのマス目に記入していきましょう。

ごうなりたいな 2年後の自分

5年 組

今年の自分と2年間の学習を通してなりたい自分を書きましょう。

自分の姿

家庭科でできるよくなったことを書き入れましょう。

5年生

6年生

自分の姿を記入し、2年後の自分を書き入れましょう。

自分の思い

ボタン付けが自分でできるようになりたい。

将来一人暮らしをしたいんだ。家庭科は生活していくために必要なことを学ぶ教科だね



家族や周りの人の支えがあったから、今までいるいることができるようになったんだね。

家庭科の学習は、これまでの生活や学習とつながっているんだね。



家庭での自分の仕事を少しずつ増やしていきたいな。

実践事例② 夏休みチャレンジ報告会 (0.5時間扱い)

●夏休みチャレンジ報告会をしましょう。

夏休みチャレンジ計画

★ 学んだことをかし、さらに工夫を加えて、家庭の作業にチャレンジしましょう。

5年 組

チャレンジすること (だれの (何の) ために 何を どうする)

夏休みのために温野菜サラダを作る

初めて・実せんの様子・レベルアップしたところなど

レベル1 (お母さんの温野菜サラダを作る)

お母さんやパパと一緒にお肉をゆいてからからハムを千切りにしてまぜてドレッシングをかけた。

野菜だけでなくハムも入れた。 (達成した日 8/16)

レベル2 (家族のために大人よりボリュームのサラダを作る)

お肉を煮てからからハムを千切りにしてまぜてドレッシングをかけた。

野菜の他にからからあげも入れた。 (達成した日 8/16)

レベル3 (家族のためにボリュームのサラダを作る)

これまで野菜だけだったのをお肉をいれてメインのおかずにもなるようにしました。

お肉をゆいてからからハムを千切りにしてまぜてドレッシングをかけた。

色とりどりのサラダになるようにしました。 (達成した日 8/16)

感想

思っていたよりサラダを作るのは大変なお母さんには毎日おつかひですごいと思いました。

おうちの方から回数を重ねるごとに、手際が良くなり感じました。最後には盛り付けにも力を入れていました。お母さん、お父さん、ありがとうございました。

【家族の方からのコメント】

○おうちの方から一言

お肉の使い方が少しあぶなかつたけど、一人ですべて作って良かったです。特に盛り付けに時間をかけました。ドレッシングも味見もちゃんとやりました。

【児童の感想】

夜ごはんは、作りたてのサラダは美味いから「すごい」とお母さんに褒められました。お母さん、お父さん、ありがとうございました。

レベルアップしていったのがすごいね。レベル3では家の人と一緒にサラダを作ったりメインのおかずをつくったりしてすごいな。

私も夏休み、お母さんと一緒に料理をしたよ。今度は一人で作れるようにになりたいな。

実践事例③ 振り返ろう できるようになったこと (1時間扱い)

●1年間で学習したことを振り返ってみましょう。

【作品の振り返り】



最初はどきどきしたけど、ミシンを使って小物を作ることができるようになったよ。

温野菜サラダの学習をして、家族のために作るようになったんだ。

【ワークシートの振り返り】



できるようになったことが増えてうれしい。

1年間でこんなにたくさんのご飯が作れるようになったんだね。

●6年生でさらにできるようになりたいことを考えましょう。

4年の時に(初めの方)エプロンやクッションなどを作れるようになっていたと思っていたのでこれから卒業おめでとうにエプロンやクッションを作れるようになりたいです。また4年生の時よりもお手伝いすることが増えたのでこれからもっとお手伝いをしていきたいです。

6年生になったら、1人で朝食が作れるようになりたいな。

こうなりたいな 2年後の自分

5年 組

★今の自分と2年間の学習を通してなりたい自分を書きましよう。

今の自分 縫製が得意ではない。縫い糸が切れて縫えない。縫うときに糸が日本産縫い針の糸が切れる。縫い針が切れない。ミシンを使えない。

★家庭科でできるようになったことを書き入れましよう。



★お洋服が縫えるようになったら、縫いにチャレンジましよう。

★全部書き込んだら、得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

得意な学習を同じ色でぬってましよう。

実践事例④ 生かそう 自分にできること (1.5時間扱い)

●2学年間の家庭科の学習を通してできるようになったことを生かして、ありがたいの気持ちを届けよう。

家族におそろいの小物をプレゼントしよう。



●中学校でさらにできるようになりたいことを考えましよう。

家族のためにお弁当を作って、感謝の気持ちを伝えました。



中学校で、肉や魚を使ったおかずを勉強して、一人で夕食が作れるようになりたい。もっと家のことができる自分になりたい。

実践の成果

家庭科の学習のはじめにガイダンスを行い、自分の成長を確認する場を年間指導計画に位置付けることで「できるようになってうれしい。」「あんなこともできるようになりたい。」という児童の学習意欲を継続することができた。

またその際、2学年間で同じワークシート「こうなりたいな2年後の自分」を使用し、できるようになったことを記録していくことで、児童は達成感や満足感を得ることができたようだ。そして、学年の最後の区切りの時期に、記録したワークシートを用いながら振り返りを行うことで、自分の成長を実感し、自分に自信をもつこともできたようだ。また、夏休みチャレンジや調理実習後の家庭実践の際の家族の方のコメントから、家族の一員としての自分の成長を実感するとともに、自分の成長は家族の喜びでもあることに気付くことができていた。このような活動をとおして、今まで自分の成長を支えてくれた家族に感謝の気持ちをもつことにもつながった。

なお、第5学年のまとめの学習として、1年間でできるようになったことを4年生に伝えるという活動も考えられる。4年生に伝えることで5年生の学習を再確認することができ、4年生は次年度からはじまる家庭科の学習に見通しをもつことができる。さらに、小・中学校の連携の視点からも、上記の「こうなりたいな2年後の自分」のワークシートを中学校へつなげていくことも考えられる。

事例5 体験を通して、身近な消費生活と環境を考え、実践的な態度を育てる事例

実践のねらいと手立て

| 題材名 | A | B | C | D | 編成要領 |
|-----------------------|---|---|---|------------|------|
| 考えよう 物の選び方・買い方 (第5学年) | | | | (1)アイ (2)ア | P111 |

本題材は、内容D(1)アイと(2)アとの関連を図った事例である。身近な生活における消費と環境の学習をとおして、物や金銭の使い方への関心を高め、環境に配慮することの大切さに気付くとともに、物の選択、購入及び活用に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、身近な消費生活や環境をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を育てることをねらいとしている。

ここでは、身近な物を実際に購入する場面を想定して、物の選び方を模擬的に体験する学習を行う。そこで、前時で学習した題材名「身の回りクリーン作戦」での整理・整頓と関連させ、児童にとって一番身近で、自分の生活を見直しやすい文房具を選ぶ場の設定をした。さらに、今までの物の使い方や購入の仕方について振り返り、限りある物や金銭が大切であることに気付き、主体的に生活を工夫できる消費者としての素地を育てていくこととした。

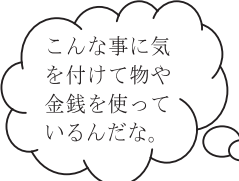

1 題材の目標



- ・物や金銭の計画的な使い方に関心をもち、環境にも配慮して適切に購入しようとする。 〈関心・意欲・態度〉
- ・物の選び方や買い方を、自分との生活や環境との関わりで考えたり、工夫したりする。 〈創意工夫〉
- ・購入しようとする物の品質や価格などの情報を集め、整理することができる。 〈技能〉
- ・金銭を無駄なく、環境に配慮して計画的に使う大切さや、適切な購入の仕方を理解する。 〈知識・理解〉

2 題材の評価規準

| 家庭生活への関心・意欲・態度 | 生活を創意工夫する能力 | 生活の技能 | 家庭生活についての知識・理解 |
|---|---|-------------------------------------|--|
| 物や金銭の計画的な使い方に関心をもち、環境にも配慮して適切に購入しようとしている。 | 物の選び方や買い方を、自分との生活や環境との関わりで考えたり、工夫したりしている。 | 購入しようとする物の品質や価格などの情報を集め、整理することができる。 | 金銭を無駄なく、環境に配慮して計画的に使う大切さや、適切な購入の仕方を理解している。 |

3 指導と評価の計画 (4時間扱い)

| 時間 | ○ねらい・学習活動 | 評価規準・評価方法 | | | |
|----|--|--|---|--|---|
| | | 家庭生活への関心・意欲・態度 | 生活を創意工夫する能力 | 生活の技能 | 家庭生活についての知識・理解 |
| 1 | ○物や金銭の大切さに気付き、計画的な金銭の使い方や環境に配慮した物の使い方を理解する。 ・アンケートやワークシートを基に身近な物や金銭の使い方について振り返り、話し合う。 | ①自分の生活や環境との関わりから、物や金銭の大切さに気付き、その使い方に関心をもちている。 (発表・ワークシート) | こんな事に気を付けて物や金銭を使っているんだな。  |  | ①環境に配慮した物の使い方などについて理解している (ワークシート) |
| 2 | ○目的や品質を考えた物の選び方について理解する。 ・物の選び方を模擬的に体験する。(文房具) | | | | ②目的や品質を考えた物の選び方について理解している。 (発表・ワークシート) |

| | | | | | |
|---|--|---|---|--|---|
| 3 | ○身の回りの物の選び方に関心をもち、購入しようとする物の品質や価格などの情報を利用して、適切な物の選び方や購入の仕方を工夫する。 ・買物を計画し、購入の方法を考える。 | ②身の回りの物の選び方に関心をもち、適切に選択しようとしている。 (発言・ワークシート) | ①購入しようとする物の品質や価格などの情報を活用し、目的に合った物の選び方や買い方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。 (ワークシート) | ①購入しようとする物の品質や価格などの情報を集め、整理することができる。(ワークシート) |  |
| 4 | | | | |  |

4 本時の学習指導 (2 / 4時)



(1) 目標

・目的や品質を考えた物の選び方が分かる。

(知識・理解)

(2) 展開

| 時間 | 学習活動 | ○指導上の留意点 ◇評価 | 資料 |
|-----|---|--|---|
| 5' | 1 本時の学習内容を知る。 | ○前時で学んだ、物や金銭の使い方を振り返らせ、物の選び方について学習することを知らせる。 | 課題シート (掲示用) |
| | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">かしこく物を選んで、買物の達人になろう！</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 目的・・・来年小学校に入学する親戚の女の子にプレゼントするため。 予算・・・2000円 買う品物・・・ふでばこ ノート えんぴつ 消しゴム </div> | | |
| 15' | 2 物の選び方の模擬体験をする。 ・一人ずつ四種類の文房具を実際に触ったりして、それぞれ二つの物からどちらかを選び、またその理由もワークシートに記入する。 ①筆箱を選ぶ。 ・キャラクターのかわいい柄で ポーチ型 700円 ・無地で多機能付きの箱形で 定価1400円が1000円に値引きされている。 ②ノートを選ぶ。 ・上質紙 128円 ・再生紙 88円 ③鉛筆を選ぶ。 ・エコマーク付き商品 1 ダース 400円 ・1 ダース 398円 ④品質の同じ消しゴムを選ぶ。 ・1個 88円 ・3個パック 248円 | ○児童にとって身近な品物を選択し、買物の条件を設定することで意欲的に学習に取り組めるようにする。 ○買物をするときに、注意することを思い出させ、それぞれが根拠をもって品物を選ぶように助言する。 ○物の選び方や買い方の学習は、初めてなので、それぞれ違う視点で選べるような四種類の文房具にする。 ○筆箱：機能や柄と値段を考えて目的に合わせて選ぶことができるよう助言する。 ○ノート：品質の違いが分らない児童には、比べる視点について助言し、目的を考えて選べるようにする。 ○鉛筆：品質の違いが分らない児童には、エコマークに気付け、環境に配慮する視点をもたせ、目的を考えて選ぶようにさせる。 ○消しゴム：量と値段、目的を考えて選ぶようにし、比べる視点について助言する。 | ワークシート <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">どこが違うのかな。このマークって何だろうね。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-top: 10px;">どこに何を入れるか分かりやすいなあ。鉛筆削りが付いているよ。</div> 商品 (実物) 筆箱 ノート 鉛筆 消しゴム |

| | | | |
|--|---|--|--|
| 10' | 3 グループごとに選んだ品物とその理由を話し合う。 | ○一人一人が自分の選んだ理由を説明できるようにする。 | |
| 10' | 4 選んだ品物とその理由を発表し、全体で話し合う。 | |  <p>落としても壊れなくて丈夫そうなので、こちらを選びました。長く使ってもらいたいです。</p> |
| | | |  <p>値段や品質をよく見て考えているね。</p> <p>値段だけでなく、品質もよく比べて選びました。友達の発表を聞いて、エコマークや再生紙の文字も確認して、環境に配慮した商品を選びたいと思いました。</p> |
| 5' | 5 学習を振り返り、これからの生活に生かしていきたいことをワークシートに記入し、発表する。 | ○欲しい物があってもすぐには買わず、本当に必要かどうかをよく考えることが環境にもよいということを確認する。 ○目的を考えた適切な選び方を具体的にワークシートに記入している児童に発表させ、選ぶ上での視点を再度全体で確認する。 | ワークシート |
| ◇目的や品質を考えた物の選び方について理解している。〈知識・理解〉(発表、ワークシート) | | | |
| おおむね満足できる (B) | | ・物の選び方のポイントがワークシートに記入され、目的を考えて値段や品質を選んでいる。 →値段以外の視点がないか本時の学習を振り返るように助言する。 | |
| 6 | 次時の学習内容を知る。 | ○本時の学習を生かして、朝食作りの家庭実践に向けた食材の選び方と買い方を学習することを知らせる。 | |

(3) 資料 <K 児のワークシート (本時)>

※学習を振り返って、～これからの生活に生かしたいこと～

これから買い物をする時にはエコマーク商品とかを見ようと思います。後、今日の学習でねたんが安いから、こうにするとかびなくてエコマークとかを見たり品質をかくにんもしようと思います。今度一年生になることよげる物で今日の学習を生かそうと思いました。

評価規準 <知識・理解> (ワークシート)
 「十分満足できる」状況 (A) と判断される児童の姿
 物の選び方のポイントが具体的にワークシートに記入され、目的や値段、品質を考えている他、環境についても考えて選んでいる。

K 児においては、目的や品質を考えて選ぶ以外にも、エコマークなどの環境に配慮する必要性を理解していることから「十分満足できる」状況 (A) と判断した。



<友達の発表を参考にしている様子>



5 実践の成果

児童にとって一番身近で自分の生活を見直しやすい文房具を使用し、物の選び方を模擬体験する学習においては、児童が意欲的に取り組み、活発に意見を交換する様子が見られた。また、意見を出し合う中で自分の考えを見直すことができていた。さらに、第3・4時間目の実際の買物を想定した選び方や買い方の学習を生かして、朝食作りの家庭実践の買物につなげることができた。

考えよう、物の選び方、買い方
 ※買い物計画し、購入の方法を考えよう!

1. 目的 おみそしるの実を買おう 領収書

2. 計画を立てる

① 買う物メモ

| | | | |
|-----|---------------|-----|-----|
| 買う物 | じょうがいも、500円揚げ | 600 | 700 |
| 買う店 | ○○スーパー | 250 | 100 |
| 総計 | 500円 | 250 | 100 |

② 関係を決める

チラシを比べる
インターネットで調べ
家の人に関く

3. 品物を選ぶ

気をつけること

じょうがいもは新鮮なものを
産地に産を付けて
エコバッグを持って行く

4. 買う・支払う

現金で支払いのレジで支払った

5. 取り返す

おみそしるの種類の数が少ないので、おみそしるの家に居るおみそしるのじょうがいもにしたので、おみそしるです。
目的に合っている物がなかったのでおみそしるです。

家の人からのひとこと
買物の時は、商品の選び方がよく理解できてよかったと思います。これからよく買物をしようと思います。

<家庭実践でのワークシート>